

通勤寮	もっとわかってほしいなあ、と思っていること	6
恋人や異性のことをもっと知っておきたい。通きんりょうの旅行も個人の自由にしたい。もっと自由な生活をしたい。		
恋人と、結婚したいです。OK		
寮生活はもっと、自由にしてほしい		
寮生の事もっとわかってほしい		
寮を早く出ること		
寮をかいそうして皆それぞれ台所や普通のアパートみたいな寮にしてほしい。そしたら、もっと自分のためになると思う。		
寮に行事などには、でたくない。恋愛関係について。日曜日も職員の人達が当直してほしい。職員の人達と一緒にごはんをつくってみたい。ごはんの作り方を教えてください。		
旅行に行く 見学旅行に行くを職員が決めるのではなく 寮生と職員と一緒に決めてほしい		
旅行にもっと出かけたい。		
有りすぎて書けない		
友達のもっと私の気持ちをわかってほしい？		
友達と買い物にいきたいとおもっています		
友達とのつきあい方		
友だちをほしい		
夢		
僕は、鋼路のマンションでくらしていきます。		
僕がどんな性格かわかってほしい		
別にになにもありません。		
別にありません。		
平成13年4月～11月に森さんの自宅で、家庭の生活で、引越準備にします。最終月で2001年4月30日～11月下旬寮の退寮。		
不安とはなんですか！		
皮のことをもっとわかってほしいです。		
彼女がほしいなと思います。		
彼と二人で生活したいと思うこと。		
買いたいものを自由にさせて欲しい。		
背がきびきびと動いてみならいたい所です。		
日曜がいつする時間が4時までにかえつてこないといけないのでもっと時間をのばしてほしい		
特べつないです		
通勤寮がもっといい寮だったらよかったです。		
通勤寮にはやくてきたいです。		
通勤寮で新聞などで他のしせつに伝えて交流をふかめたいです。		
通勤寮でなんで男の人ばかりなんですか、教えてください。なぜ女の人もいっしょうじやないんですか。教えてください。		
通勤寮からでたいとおもう。		
朝のそらじが何人かやっていないのがいます。		
仲間がふえる事		
仲々友達に逢えないので、自分で、仲間と逢える時間を決めてみたい。		
担当職員を自分で決めたい理由は、もっといろんな職員からいろいろと教えてもらってもっと学びたいです、それをわかってほしいです。		
相談とか話をなんでもはなせるような人がほしい		
早く通勤寮を卒業したい。		
早く車の免許をとって、車を買って運転したいカラオケを歌える、テレビビデオを、見る		
早く自分のところにエレクターンがきてほしい いつもつまらない寮でなく明るくてたのしい寮にみんなでかえていきたいなあ～		
早く行事や用事をすまして、終わったら自分の部屋に帰ります。		
早く家族をらくにさせてあげたい。赤ちゃんをだいに弟と兄弟でくらしたい。		
早くも彼をさがして結婚したいです。かはい女子 趣旨は日本代表の柔道の柔ちゃん田村亮子 バレーボール大懸部久美選手が大すぎです		
早くへやがえをしてほしい		
早くでたい		
早くグループホームに行きたい 結婚しよくいんよりさきに結婚したい。		
早く1Fにおりたい。ずっと2Fばかりは、当番ののぼりおりやトイレに行くのがたいへんです。おねがいます。		
早く、家族といっしょにくらしたい。本当の自分をわかってほしい。		
先生方にもっと私のこと考えて欲しい		
先生方にききますけど このりょうの中がおかしくありませんか		
先生にわかってほしい		
先生たちのいみをもう少しわしくおしえてほしい りょうせいの話もゆっくり聞いてほしい 早口にならないでほしい		
先生が金をかなりしています。それをぼくにやらせないです。それはぼくはようつかりますけどいづれいつかは自分でやらないといけませんだからぼくに金をわたしてください。金の教いくをおしえてください。いじょう～		
先生がたとりょう生ともっとはなし合ったりしたい		
静にしてほしい		
人間かんけいをもっと良くなってほしいです。		
人を見た目ではんだんしないてください		
人の物をかりたらかならずかえすこととくに寮生		

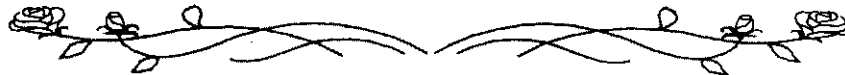
グループホーム ... もっとわかってほしいなあ、と思っていること /
こいびとがいなくていい人をさがして下さい。さみしいのですのでさがして下さい。いい人がいたらけんしたいのです。女のこのともだちがほしい。女のこのたんじょうびおしえてもらいたい。
自由につきあいたいです。こづかい帳をなくしてほしい。
自由はかのじょうがほしいです。
ぼくは親やがはんたいしても恋人といっしょにくらいたいと思いますできるならば結婚していきたくとも思っています
今つき合っている人の事をもっとわかってもらいたい。恋人と僕の事。
自由は、かのじょうがほしいです
グループホームはたのしいがおとご同士だけで くらすのはおもしろくない たまには女の子もいれた方がもったのしくなるとぼくはおもう
自分結婚をしておやこうをしたいとをつつてがんばっていますぼくのかのじょうをしてじどうしゃとおとばいをとりたいです。
アパートに入りよしたいり恋人をみつめて結婚をしたい 人のためいこれからのために お金を自分でかんりしたい 何んでも自分でできるようにさせてほしい。
山ノ内裕美ちゃんとおつき合いをしたい気持ちがわかってほしい
こうさいについてわかってほしい
自分の恋人のことをあまりまわりでこちやこちいわないでほしい
東京や大阪の施設の人たちといろいろ話しをしたりつき合って行きたい
友達なにけんが、やめることをしまよう。
友だちつきあいをもっともつづけたい。ひつこうきにのたことがないのでぜひのりたいたいです。お金をむだ使いにしないようにしてお金をもっともつためたいたいです。
ひとにあたらないようにしてほしい きぶんわるくなるし ひとにぼろりよくをふたりしないように かつとなるとれいせきうしなうので わかってほしい きがあうひとあわないひとがいることも わかってほしい、きがあうひとはなすのたのしので それもわかってほしい
あいたいのでなかよくしましょう。じことうをしましょう。
様の家のメンバーをかえてほしい はなしあいができないから 私のへやのすぐ上の人は毎日あばれていてねむれない
もつともちがほしいです
寮の他のメンバーのうるさい時が有り、それが嫌。職員と遊びに行きたい。
私はいろいろなひとと交流したいけども交流のきかいをふやしてほしいと思っています。
とみえさんとコーヒタイムたのしむ
みんながなかよくらせるように、みんながきょうりよくをたすけあつていけるように。
みんなとなかよくしたい しの やなことしない しのわるぐち ゆる まじめにすること いこと
みんなが、きめう事にたして、分かってもらいたい。ゆう言葉にたいして、しつこくゆうわかない事を分かってもらいたい。
こぼやしまさかず なをまたまくやて
一緒にくらしている人の中できらいな人はいなくなってほしい
もうすこし、ホームの仲間たちと仲良くできるようにしたい。
ともだちがほしいです
皆仲良くしている。
グループから出たら自立したい
はやくホームからでたい
1で、くらしたいアパートで。
アパートくらしとけっこんがしたいです。くるまのめんきょうがほしいです。
おやとくらしたいとおもいました！！たのしいかてにしたいとおもいました
アパートでくらしたい。
・とかいで友達(いっばんの人)といっしょに働きたい。・おちついている場所(回りに公園やけしきなど)
ぼくはグループホームに、
今はそんなに思っていないけどあんまり汗流された頃は頭にきた寮生活だからしかたないかも知れないけどその人その人で感情も見方も違うと思うだから早く独立したい
自分1人で生活していきたい、自分の金自分でためるようにしてつかう、
余市町にグループホームをたてられる様、「土地」を作してほしい。
早く一人でくらしをしたいです。
自分達がとしをとった時にも働たらくばしよがあり楽しくすごすことができるようにしてほしいです
未来、不安、21せいき
わたしははやく1人でくらししてじすいしてけっこんもゆめ
自宅でくらしたい
ぼくは本当は車の免許を今のうちに早く取りたいことです。早く、グループへ出ていけるように、がんばります。もくひょう三月下旬まで、グループとしてがんばります。
仕事をづくても一生けん命がながっているということを知ってほしいと思います。
もっと仕事がいそがしくなること
あまり仕事のとて人にもんくはゆはれない。
はやくしごとをはかりたい
しことつらいです
よくやっています。仕事がたのしいです。
しごとができるのでごはんがおいしいくたべれる
もうちよとぎょうろをあげてほしい
お金ほしいです(こづかい)たらことなまこたねたい

グループホーム	もっとわかってほしいなあ、と思っていること	2
もっとお金をふやしたい。いろいろな、友達がほしい。		
もっと給料をあげる 恋人といっしょにくらしたい		
今の職場に入社して、まだ一円たりと給料が上がらないので、転職させて欲しい。		
作業所の給与が少ないのでもっと上げてほしい		
"コツコツ"とお金を貯めてどこか旅行(海外でも国内でもいいですが!)をしたいですね!		
小使をふやしてほしい いまの仕事おやめたい		
給料、賞与は、金額、貯金する決まりになっているけど、賞与だけは、好きな金額だけ、自由に支出させてほしい。		
給料が安い		
カラオケをかてください		
ホームでみんなと一緒に一日旅行とか泊まりの旅行のことわかってほしいです。		
もう少し将来の事をわかってほしい 気持ちをわかってほしい		
外国では、もう30年前から、しょうがい者とつかわれないのになぜ日本人は、つかうのですか。もう私は、つかってないのに、いろんな金話の中でよく耳にします。チャレンジとつかってほしい。		
お母さんとお姉ちゃんでもよくをかいとおもっています。		
まわりの人たちから、障害者として、みられて、いるみたいなので、もっとふつうの大人として、みてもらいたい。そして差別をしないでほしい。あたまごなしで、この人は、できるとかできないときめつけないで、ほしい。バカとか、アホといわないで、ほしい。1人の人だけ、ばっかしをやさしくしないで、ほしい。同じくびょうどうにあつかって、ほしい。		
お休みのときに、ゆっくりねむりたい。土曜日・日よう日は、ゆっくりねむりたいです。		
へやのかたづけかたがよくないけどきちんとできるようにになりたい		
ぐるぶほむでじでんしわおよくじごころのるひどかいるからじんものりたくなどしてかとゆかいもにのていくからです		
丸山案内にへやにひろくしたいとおもいます。丸山案内にたものやね、ぜんぶをなoshたいとおもいます。		
もっと訪問してほしい		
ひとりへやほしい		
もっと自由をおおくしてほしい。		
リサイクルでの買物 100円ショップでの買物		
一人部屋が ほしい ごはんをつくりたい かいものに行きたい。		
もっと自由があってもいいと思います。		
もっと大人として見てほしいです。		
りようがしたい		
もっと休がほしいです。あそべるからです。		
やりたいことおとめくる(ばっくあつぶのしょくいん)		
ようしよう(本)ミリタリもの		
もとしかりだい		
まつのせんにいきませんに いきまやすみ しもるにいきました さかなつりお、しています		
相手のことを理解してほしい		
今のままで、十分、自分でやりたい事は、自分でできるので、申し分ないですね。よかったです。その他、何もありません、はい		
じぶんでかいもおしたい。		
そうじをして下さい		
私の本当の気持ちわかってほしい...		
自分がもっと自由にしていきたいです。		
自分では頑張っているんだけど他の人から見たら出来るのうりよくがたりないとか言われる。		
自分で朝・夕食を作ってみたいと思っています。		
私の気持		
もっといつぱんの人の人におれたちのことももっともってわかってほしい。もっと見てほしい。		
しょう書者が住みやすいようにしてほしい。へんけんをなくしてほしい。		
たのしくしてほしい		
私のきもちをわかってほしいです。みんなと仲良くあつてたすけあつてやっていきたいと思ひます。人にたたかれてしまつて鼻血がしまつたたくさんでしまいました。		
でたくない行事は、自由さんかにしてほしい。男女さべつをなくしてほしい。		
しんぞうのびようきわかってほしい		
かんがえたことがない		
職員とスキーに行きたい		
グループホームをだれもいききできるところにしてほしい。		
じぶんでかいたいものは、テレビをかいたいしコンボもホシけどりあえずじにものをだいにつかいたいです。		
私のいけんは、お金が付4万円ぐらいでやってみたいです。いまは、5千円だけど、いつか1ヶ月いくら、てなるようにがんばります。		
テレビがほしい。パソコンがほしい。		
☆障害者を持っている人をもっと楽しんでいただきたい。		
私が、はっきりといえないので、でも、はっきりといつてつもりですか、あいてにわかつてもらないことか、くやしい、私なり、いつてつもりです。		
夜、みんなまでかきたい。		
朝早く起きたい。		

グループホーム	もっとわかってほしいなあ、と思っていること	3
電話おかけたいです。		
平田産商でがんばりたいと思う		
僕の気持ちも分かって欲しい元のホームに戻りたい		
東京でくらしたい		
・世話人さんやホームの人たちみんないっしょに遠出できるといいです。・地域の人たちとのスポーツのこりりゆうがときどきあるといい。		
日本の歴史の勉強をみんなに教えてもらおうこと。特に「横井小楠問題」を考えること。		
○風呂の時間を短くしてほしい○時間や規則を守って欲しい		
週のごづかいをちょっとあげてほしい。		
社会のこともっとしりたい。もっと社会の景気を復活させたい。		
考ていほこして作りしていきたい		
・自分の部屋くるとき、まえもって電話を入れてほしい、		
あんまりがみがみ言わないでほしいと思う。		
人のへやに入ったり、人の電話の内ようをしていたり しらないはずのことがしていたりプライバシーすらむしするしょくいんと りょう生の人間 まるでとうちようされてるみたい。		
もっと、しょくいんと、はなしがしたい。		
もっとせわじんちゃんがかかりしてください		
あまりうるさいといわないでほしい		
世話人さんにもう少し、自分たちのことをわかったほしい。世話人さんうるさく、あれこれ、これすれと行ってほしくない。		
えこひいきしないでみんなびようどうにみてもらいたい		
せわ人をかえてほしいです。食事とうばんを1ヶ月にしてほしいです。しょくいんを女しょくいんにけてほしいです。		
自分がお金づかいがまた少しあらいのでグループホームのせわにんさんにちゆうされます。		
なやみがあつたらまじめにきてほしいしこたえてほしいな。		
なんでも人のすることを通きん寮の職員に反対される		
ふくをかう時じみな色をすすめないでほしい。ぐわいがわるい時に仕事にいきなさいっていうのはやめてほしい なんのために有休があるの。		
これから、お金のつかいかたやしごとのことを わかりやすくおしえてほしいです。はじめてしごとばを はじめられたことでわからなかった。いまは、あいさつとへんじをしなど せわにんさんから先生たちおしえてくれた。すこししています。		
もう少し私のことをもっとあいてにしてもらってほしいこともさしようから最後まで聞いてほしい。そして人と話をしているところへ口にだしてほしくない友達とストーブのとりあいこをしてみたり仲間と一緒に話をしているところを聞いてほしい		
言うたこと、決めたこと その近所にかれらに更う先に相談して 職員に読めて寛控革に掲示にできることを見て さっそく電話に世話人さんに有る感心を気に合う辺り前にお約東方に作る事		
世話人さんがきびしいのであんまりうるさく言わないで欲しいです		
ほかの人たちだけでなく、もっと、自分のことをかまってほしい。世話人と、そうだんにのってほしい。りかいして、わかってほしい。		
世話人さんにわかってほしい		
先生におからしました。会社40分に行きましたもとうぼくに行きなと行きました 50分行きなさいました		
ホームのしょくいんにもっとわかってほしい。		
自分にたいして世話人さんにもっと理解してほしいです。あまり怒らないようにしてほしいです。やさしくしてほしいです。		
たまには、りょうにも来ててください。待っています。堂前さんに、もっと 話したいです。		
世話人さんもっとはなしおきてほしい		
たむらりょういいですよ		
あなたもうとゆか		
前のページのところにかいてあるとうりです		
書まつりをなくせ		
あんのしごに		
カレーライス		
ちかごろの人は二人のりでてんしゃやみちでみちいっばいでてんしゃにのっている人がちが多い、ふくそうをだらしなくしている人たちはいけないと思います。		
*絵あり		

地域	職員に言いたいこと
	寮に行ったら冷めたい態度をとらないでほしい。今までは今までで流してほしい、これからはこれから考えてほしい。もっと二人でくらすことをゆるしてほしいです。もっといやがらないようにして、ふつうに話してほしい。
	浜崎先生お元気ですか。僕も一生けんめいがんばっています。正月にいえに帰りました。お父さんとお母さんに会いました。とってうれしかった。
	通勤寮の先生はそうだしでもだめです。お金のつかうことばかりでこまります。旅行でもへんなどこつれてかれてこまります。もうすごいといいとこにしてほしい
	通きん寮から、ホームや、アパートに出たり結婚している人の、所に、ほうもんをしてほしい。
	町であつたらはなしかけたときは、きもちよく話しをしたいです
	大力先生片岡伸世先生より買原石井吾さんより旭川荘療育センター児童院能波検査内科Aにみてもらいました。
	早く一人でアパート生活をしたいです
	前のページに別の職員に、変わってほしいって書いてありましたが もしそのことが実現したら 若竹通勤寮やほかの結婚組や寮生やグループホームの子や 世話人さんのことをどう考えているんでしょうか？また職員が変わったら内容がさらに変わるような気がします。私ははっきり言って心配してます。別に私はそうは思っていないです。
	世話人さんにもわるいところがあるから注意して下さいね。
	職場であつたことやどんな方々が働いている等という話を喫茶店でも話したいと感じています。
	小づかいをもう少し増やしてほしい。もう少し自由にお金を使わせてほしい。
	自立が何に？私たちに自立なんてむりだ！！何でもできれば良いもんだいじゃない。
	私の考えてる事を聞いて下さい。そして好きな人と会わせて下さい。生活するうえで必要な手続きやお金を1ヶ月どのくらいつかうのかとちよ金がいくらあるかといろいろ教えてほしい。
	私、努力すれば、みんなついてくることを感じてる事です。だから、これからもがんばりたいです。1人じゃないんだね。
	仕事も、駄目になって、アパートも出なさいけなくなって、これからどうして生きて、いか本当に、なやんでいます。どうかアドバイスください。
	好きな人と結婚したい アパートの広い所に変わりたい※世話人が書く
	光楽荘にすんで4年とはんとしがすぎます 今すぐはむりだと思うけど、あと6年光楽荘にすんでやちんのやすいところにかわりたいです
	会社の人たちがかにいじめられる
	俺の事も分かってない。
	わたしたちが、しっぱいした事や、あずかったお金の事で、もしお金をなくしたときなど、ちゃんとわたしたちがはらったのに、そのことでなんかいもしつこくしないでほしい、お金とかは、たてかえとはらっているのですから、お金の事については、あくまでもしつこくしないでほしいです。
	やさしいからなにもない
	もとやさしいこえをしてください
	もっと勉強して欲しい、理解のある人々になって欲しい。
	もっと私のおかんがえてほしい
	もっとしっかりしてほしい
	もし自分が困った時にお話(相談)に乗ってほしい。
	もう少したくさん相談にのってもらいたい。
	ほかの仕事のじょうきょうをよく知ってもらいたい。
	ほかがどんなかこしとでもいわないでください
	べつにない
	はらをたてずにやってほしい。
	できればてがみのへんじに、私たちが、しつもんしたことを、きちんと、かいてほしいです。
	しよくいんにいたのですがきまりをまりなさいといってゆうのいのですじぶんたてやっていこかと思えますあゆんまりせめなでほしい
	しよくいん。
	しゆみで、鯉鱈ひのべんきょうをしていますので、あたたかく、みまもってください。
	じぶんでちゆちよをもちたいです。
	こまった時に話を聴いてほしい
	きらくに話してほしい。
	きょうかいせんおかくすことおいてもいたいわかれてちがうひととけんしたい
	お金を自分じんでしていきたい
	いねむりしないで欲しい。
	いつもみていてしまい
	あまりありません。先生方も自分の身になり、援助してくれてると思うし人のケアをするという事はむずかしいと思う。だから、先生にも私たちが、なやんだりこまった事でそうだしするように先生方もあると思います。本当に寮の先生方には感謝しなさいけない事はあると思います。
	あつまりをへらしてほしい
	1ヶ月一度でもいいから家にきていろんな話をしたり注意してほしい。
	1. 保険証を持たせてほしい。2. 何でも勝手に本人に相談せず職員だけ決めては決めてほしい。3.
	・けつこんさせてほしい。いいこい人をさがしてほしい ・仕事場でいじめられたときになやみごとをよく、きいてほしい、仕事場によくこてほしい ・休みが日よう日しかとれないので自由に休みさせてほしい

平成11年度 通勤寮部会 「本人対象アンケート調査」実施要領



知的障害者ご本人からの調査を実施するにあたり、皆様と以下のいくつかの点を確認し、できるだけご本人の、正直な率直な意見を収集したいと考えています。お手数をおかけしますが、データの信頼性を高めるためにも、関係各位にはご理解の上、ご協力いただきますようお願いいたします。

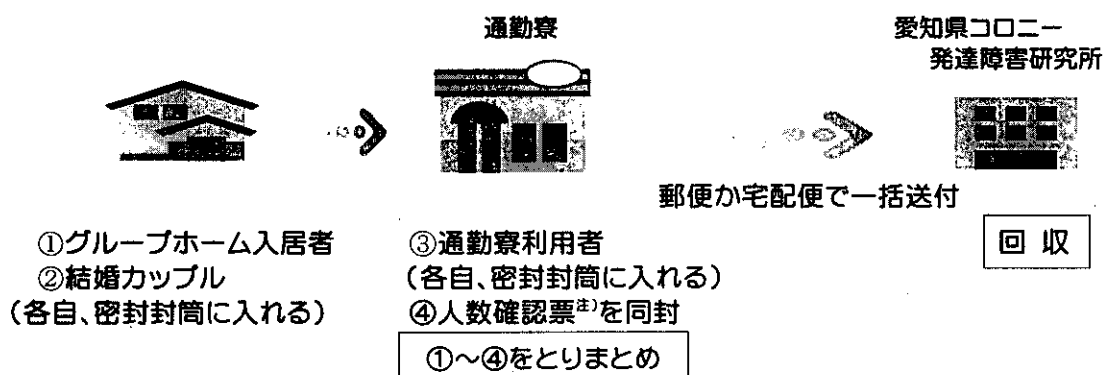
☆調査票について

調査票は、対象者別に3種類あります。各通勤寮ごとに、必要な部数をコピーしてください。わかりやすいように、原本は色分けしましたが、必ずしも色紙である必要はありません。また、両面コピーでも片面コピーでもどちらでも結構です。

- 1 通勤寮のみなさんへ (ブルー)
- 2 グループホームのみなさんへ (イエロー)
- 3 アパート・社員寮に住んでいるみなさんへ/結婚しているみなさんへ (ピンク)

☆回収方法について

調査票をご本人に渡す際に、ひとりに1枚ずつ、回収用封筒(何でも結構です)をいっしょにお渡しください。回答内容を職員や関係者が確認しないことをご本人に伝え、その表れとして、各自封筒に入れて密封して回収する方法をとります。これによって回答の漏れが生じても、それが実態でするので構いません。何よりも、正直なご意見を収集することが最優先とします。ただし、後にも記しますが、ご本人から回答についての援助があった場合は、その部分だけ調査票に目を通すことは結構です。

☆[※]人数確認票について

通勤寮を中心に、生活支援している実状は、登録・定員人数とは若干、異なる場合があります。そこで、今回は、調査結果をまとめる際にも重要な、調査対象者の母数を把握したいと思えます。お手数ですが、同封のグリーン(A4サイズ)の、「人数確認票」に数字を記入の上、調査票とともにご返送ください。なお、この件に関する問い合わせは、通勤寮部会事務局(大田通勤寮 宮武 03-3766-9579)までお願いします。

☆愛知県コロニー発達障害研究所への送付に関して(お願い)

3種類の調査票と「人数確認票」を、下記までご送付ください。できれば、一括でお送りくださると助かります。なお、分析に関しては、どの通勤寮関係の利用者からのデータかはわからないように数量化しますので、プライバシーの保護は守ります。

送付にあたって、お願いがあります。愛知県コロニーは県立の施設のため、土日・祝祭日・年末年始の郵便・宅配便の取り扱いがお休みとなります。回収時期はまさにこの期間と重なりますので、まことに勝手ながら、12月23、25、26、29～31日と1月1～3、8、9日には到着しないことを確認のうえ、ご送付ください。大切な調査票を確実に受け取りたいと考えています。ご協力をお願いします。



送付先および問い合わせ先

〒480-0392 愛知県春日井市神屋町713-8

愛知県コロニー発達障害研究所 社会福祉学部

電話 0568-88-0811(内線3507～3509)

ファックス 0568-88-0829 (社会福祉宛 と明記ください)

☆ご本人への調査にあたっての配慮について(重要)

ご本人を対象にした調査には、幾つかの困難点があります。字が読めない、読みにくい、質問の意味がわかりにくい、どう答えていいかまとまらない、○をつける場所がわからない、質問項目をまんべんなく回答しにくい、途中でつかれてしまう、本音が書きにくい、などです。

一方で、本人調査の回答は、多くの場合、職員や家族では想像もつかないたくさんの重要なヒントを与えてくれます。また、調査の目的が自分の暮らしにかかわることや、もっとよい暮らしにするためであることを理解すると、予想もつかないがんばりを見せて回答してくれた例もあります。ぜひ、ご本人が、周囲の方や援助者に気兼ねなく、本音を回答できるよう、最大限の配慮をお願いしますとともに、関係者への周知も徹底してください。

- ①まず、この調査の意義をご本人にご説明ください。回答しないと責められるような説明だと回答にも影響があります。職員からでなく、みなさんからの意見が何より大切であることをきちんと伝えてください。
- ②わからないことがあったら援助をお願いします。但し、必要以上の援助は、回答者が不在となります。できる限りご本人が考えて、選択するように援助してください。
- ③回答した内容について、援助者からの評価(すごいねえ、ちがうでしょ? etc...)はしないでください。あくまでもご本人が回答するにあたって必要な援助のみ(語句の説明、選択肢間の違いなど)にとどめてください。(援助者が文章を読む場合も、余分な解説は避ける)
- ④援助者が回答を記入する際は、最後に代筆者の立場をお書きください。
(例:グループホーム世話人代筆、支援ワーカー代筆 etc...)

以上、失礼なお願いばかりで申し訳ありませんが、トータルで約1万人の知的障害者ご本人が対象の、過去に例のない規模の調査です。

ぜひ、今後の生活支援施策に生かし、利用者から評価されるサービスを実現するために、皆様のご協力をお願いします。



■ 人数確認票 ■



注意 すべて、平成11年12月15日現在でお答えください。
 調査対象者の母数を確認したいための調査です。
 調査票と共にご返送ください。

★通勤寮名【 (さしつかえなければご記入ください)

1 通勤寮利用者(調査対象者) 人

2 1のうち、回収できなかった人数 人

【内訳】 入院 人 / 調査拒否 人 / その他() 人

*1-2が回収数 人分

3 グループホーム入居者実数 人

4 3のうち、回収できなかった人数 人

【内訳】 入院 人 / 調査拒否 人 / その他() 人

*3-4が回収数 人分

5 アパート利用者、社員寮利用者、結婚している者 人

6 5のうち、回収できなかった人数 人

【内訳】 入院 人 / 調査拒否 人 / その他() 人

*5-6が回収数 人分

さいごに、本調査全体についてご質問、ご意見、連絡事項等ございましたら、
 ご自由にお書きください。



ご協力、本当にありがとうございました……

研究体制

平成11年度 厚生科学研究障害保健福祉総合研究事業

「知的障害者の入所施設から地域への移行に関する研究」

主任研究者	渡辺 勲持（愛知県コロニー発達障害研究所社会福祉学部 部長）
分担研究者	手塚 直樹（静岡県立大学短期大学静岡校 教授）
	小林 繁市（伊達市地域生活支援センター 所長）
	河野 和代（若竹通勤寮 寮長）
	山田 優（知多地域障害者生活支援センターらいふ 所長）
研究協力者	島田 博祐（愛知県コロニー発達障害研究所）
	三田 優子（ ” ” ）
	青山美智恵（ ” ” ）
	堀尾富美恵（ ” ” ）
オブザーバー	定月 直樹（厚生省障害保健福祉部企画課）
調査協力	日本知的障害者愛護協会入所更生施設部会長 藤沢 敏孝
	” 入所授産施設部会長 小坂 孫次
	” 通勤寮部会 宮武 秀信
	” 通勤寮部会 中里 誠

注）所属は平成11年4月現在

平成11年度
障害保健福祉総合研究推進事業
外国人招へい報告書

入所施設から地域への移行

－アメリカ合衆国と日本との比較－

愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所
渡辺勸持、島田博祐、三田優子、青山美智恵、堀尾富美恵

目 次

1. 目的
2. 方法
3. 結果
 - 第一部 入所施設から地域移行に関する諸統計
 - (1) 入所施設から地域移行への経過と補助制度
 - (2) 施設入所者数と地域の小規模住居利用者数の推移
 - (3) 州立施設とグループホームの規模
 - (4) 施設入所者の入退所率、再入所率、退所先
 - 1) 入退所率、再入所率
 - 2) 退所先
 - (5) 施設入所者の障害程度および年齢
 - 1) 障害程度
 - 2) 年齢
 - (6) アメリカ合衆国における入所施設から地域移行に関する諸統計
 - 第二部 入所施設から地域移行を進めるときの諸問題
 - (1) 児童の施設退所
 - (2) 施設閉鎖の過程
 - (3) 入所施設の生活と地域移行後の生活の比較
 - 1) これまでの諸論文の結果
 - 2) 評価方法と事例
 - (4) 高齢者の住居と地域参加
 - (5) 問題行動 - 施設内の治療か、地域の現場での援助か -
 - 1) 入所施設の中で治療することの問題
 - 2) 入所施設内治療棟での短期入所による対応
 - 3) 施設内での短期入所による治療と地域の現場にでかけて対応する治療との比較
 - (6) コスト
 - 1) 入所施設入所者のコストの変移
 - 2) 地域移行者と施設在籍者とのコスト比較
 - (7) 今後の方向 - 自分の家をもつ -
4. 考察
 - (1) 地域移行の較差
 - (2) 地域移行を推進する要因
 - (3) 入所施設から地域移行に関する諸統計の意味
 - (4) 入所施設、地域の住居の生活の質についての評価の必要性
 - (5) アメリカ合衆国の地域移行研究の先進性と日本の今後の問題
 - (6) 入所施設による地域生活援助

入所施設から地域への移行 －アメリカ合衆国と日本との比較－

愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所
渡辺勸持、島田博祐、三田優子、青山美智恵、堀尾富美恵

1. 目的

20世紀は、知的障害者の援助という観点からみると、人類史上もっとも大きな変動の生じた世紀である。世紀前半には西欧、北米の多くの国々が優生学思想の影響を受け、知的障害者を人類の存続にとって危険なもの、さらには忌むべきものとみなし、大規模施設に収容し、隔離した。20世紀後半になると、この流れは一転し、ノーマライゼーションの理念が生まれ、知的障害者も普通の人として地域の中で援助を受けつつともに生活する方向に進んだ。その具体的な施策は、実に半世紀にわたり進められ今日もなおその延長線上にある。

我が国の知的障害者への援助もこの影響を受けているが、入所施設から地域移行へという点では、これらの欧米の国々と異なる経過を辿っている。

異なる点の一つは、入所施設が設立された時期である。日本の入所施設利用者数は、1950年に32施設、入所者総計 1432人、一施設平均入所者数45人である（日本精神薄弱者愛護協会 1984）。児童福祉法、精神薄弱者福祉法が制定された20世紀後半になって入所施設は設立された。ノーマライゼーションがすでに広がり始めていた20世紀後半に入所施設が広がり始めたのである。欧米のように優生学思想が蔓延し、障害者が否定的な観点で見られ、巨大な入所施設に隔離されたという状況は日本にはない。

日本の入所施設は、世紀前半の欧米の国々の収容施設と比較すると、比較的中小規模で、地域から隔離されていない場所に設立されたものが多い。1970年代に全国的に広められたコロニーですら入所者数は千人以下であり、アメリカ合衆国や英国のように数千人規模の収容施設は日本には存在しなかった。このことが、1989年の施設オープン化事業以後見られるように、入所施設が地域で生活している知的障害者の援助に携わる方向を進めるプラスの要因になった。しかし、その反面、入所施設と地域の小規模住居の境界があいまいになり、アメリカ合衆国の人々が、入所施設の非人間的な処遇への反省と遺恨の念をバネにして地域移行を実現しようとしたときに見られたような力は見られない。

日本の入所施設は、一般の人々の生活が安定し、経済も成長し、1979年の全員就学をはじめとした社会的援助が増えることによって、児童入所施設の定員数がまず減少した。一方、成人の入所施設は、ほぼ直線的に増加の一途をたどり、児童入所施設に在籍する成人を含めると、現在ではほぼ3人に一人が入所施設で生活している。

入所施設から地域への移行ということを欧米と日本で比較するときには、それぞれの国の歴史や社会的制度、状況の違いに加えて、欧米の収容施設と日本の入所施設の設立の経緯による相違を前提として理解しておくことが必要である。この相違は、施設環境、利用者の生活の質や人権に影響していることであろうし、入所施設が地域移行にはたす役割や地域移行の形態にも影響しているはずである。

しかし、そのような差異にもかかわらず、これらの欧米の国々がなしえた入所施設からの地域への移行 (deinstitutionalization) の過程には、われわれが学ぶ経験や研究が多くあり、共感するところも多々ある。

それは、入所施設から地域へ移行する目的が、知的障害のある人々の尊厳と深く関わっており、知的障害のある人々と「地域で共に生活する」という人類未踏の大きな理念に向けられているからであろう。一人一人の人権を守るという理念は、国や文化の違いを越えて広く普遍的な価値になりつつある。

本研究の目的は、日本の障害者の施策が「地域で共に生活する」方向へと大きく変わろうとしているこの時期に、アメリカ合衆国における入所施設から地域への移行に関するこれまでの経過を文献によりまとめ、日本の状況と比較しながら、日本の今後の入所施設から地域移行への可能性を検討することである。

2. 方法

本論文でのアメリカ合衆国および日本の資料は、出版された論文、報告書等によっている。第一部では、入所施設から地域移行に関係するアメリカ合衆国、日本の統計を中心に検討し、第二部は入所施設から地域移行へを進めるにあたりアメリカ合衆国が直面してきた、あるいは現在も直面している課題で、日本が今後考えることになるであろう課題を選択した。各課題では、アメリカ合衆国の状況を概観した後、その課題について具体的な状況を示している論文を紹介した。

3. 結果

第一部 入所施設から地域移行に関する諸統計

(1) 入所施設から地域移行への経過と補助制度

アメリカ合衆国の入所施設から地域移行への概要は、ディビッド・ブラドック「発達障害における各州の動向と国の動向 第五版」(State of States in Developmental Disabilities) (1998) の第一章に概要が述べられており、本研究班ではその章を「アメリカにおける知的障害者のサービス」として翻訳 (訳者 八巻 純) した。

ブラドックは、アメリカ合衆国の入所施設を1950年代を境目として論じている。

1840年代から1870年代にセガンやハウらが知的障害者に誠心傾けた入所施設での教育は、1880年にはすでに保護施設としての特色を深めてくる。(この間の状況はトレント Trent 1994 の訳書に詳しい。) 以後、知的障害者は社会に対する脅威として隔離、収容され始める。1907年から1939年の間には3万人以上に不妊手術が行われ、入所者数は1926年にすでに55,466人に達し、1967年には約20万人になり、一施設あたりの入所者数は1,424人となっている。

1950年代に、入所施設から地域の移行の動きが現れる。1967年には194,650人(165州立入所施設)の施設入所者数は、1968年以降29年間にわたり毎年3%~6%の減少を続け、1996年には59,762人となっている。

その転機をもたらした要件として、ブラドックは、精神遅滞市民の会 (Arc;The Association for Retarded Citizens 親、本人、関係者の会) の活動、スカンジナビア諸国からのノーマライゼーション理念の導入、州立州営入所施設への連邦政府の介入をあげている。

精神遅滞市民の会は親と本人の会による権利擁護運動の一環として、長期の居住サービスの場所である入所施設の改善に対する多くの集団訴訟の原告となり、社会の普通の人々の生活環境と同等にすることを要求した。このような判決の中で、「もっとも制約の少ない環境 (Least Restrictive Environment)」のような施設の存在に疑問を投げかける重要な概念が提起されていった。ブラドックは、施設退所のために行われた1970年から1996年に至る主要な訴訟として27訴訟をあげている。

シーレンバーガー (Scheerenberger, R. C. 1987b) は、それらの訴訟の一つで、1972年にニューヨーク州ARC (精神遅滞者市民の会) がニューヨーク州立ウイロウブルック施設 (1972年当時は入所者5,200人おり、そのうちの65%は過剰定員であった) に対しニューヨーク州を相手に行った訴訟での申し立ての中に当時の入所施設の状況 (入所者の大部分が、「回復する」までという理由で不特定の期間収容されている、施設から当然退所できる人が入所している等) が示されていると述べている。(シーレンバーガーScheerenberger 1987b 注参照)。

連邦政府は、1961年「精神遅滞者のための大統領委員会」を設置し、ノーマライゼーションを主張していた北欧のバンクーミケルセン、ニリエ、グルネヴァルトらを招へいし、1969年、「変わりつつある精神遅滞者の居住サービス」(Changing Patterns in Residential Services for the Mentally Retarded) を刊行した。同書の第三版で、Scheerenberger は、第一版で提唱されたノーマライゼーションの原理がアメリカ合衆国のその後の知的障害者の居住サービスに与えた影響の深さについて述べている (Scheerenberger 1986)。

連邦政府は州立収容施設の改善をするために、州の管轄であった施設にメディケイドの使用 (中間施設ケア事業) を認め、さらにその事業を拡大使途変更し、それぞれの州における多様な地域生活援助事業に連邦政府の補助金 (家庭・地域援助事業) を提供してきた。連邦政府による大学や施設における知的障害の研究機関への積極的な援助により、多分野における研究者が指導的役割をはたすことになった。

その他の地域移行を進めた要因として、入所施設の惨状がマスコミによって告発されたこと (Geraldo Rivera らによる「ウイロウブルック：最後に残された不名誉」のビデオテープの放映、Burton Blatt & Fred Kaplanの写真集「煉獄のクリスマス」の出版 (1966年) など) や、施設から地域に移行した人々が目覚ましい適応性を遂げていることを実証した研究が多く行われたことなどがあげられている。

このような対応を経て、現在の家族のもとを離れて生活している人の状況を1977年と1996年で比較で見ると、州立入所施設の利用者は、149,892人 (60.5%) から、59,762人 (16.8%) に減少し、15人以下の地域の住居で生活している人は40,433人 (16.3%) から255,117人 (71.7%) へと増加している (ブラドック 1998)。

ブラドックが述べているように、連邦政府からの補助制度は入所施設から地域移行への施策に大きな影響を与えてきた。

アメリカ合衆国の入所施設は1970年まで州立施設として、州の財政のみで運営されていた。1971年、国が社会保障法（the Social Security Act）の一部であるメディケイド（タイトル19）を改正し、連邦政府の基準にあった入所施設へ医療やリハビリテーションの補助を実施した。中間施設ケア事業（Intermediate Care Facilities/ Mental Retardation; ICFs/MR）である。補助金を受ける額は各州に任され、連邦政府からの州への補填率もそれぞれの州の財政状況によって50%から83%まで様々である。

中間施設ケア事業は1974年に、16人以上の大施設と同じく、15人以下の地域の居住施設に対しても補助を受けうることが明記された。

15人以下の地域の居住施設数は、1977年に188カ所、1982年には1,202カ所となったがその65%は4州で占められており、全米に広がることがなかった。一方16人以上の州立入所施設に対する中間施設ケア事業は、1977年にはすでに40州が採用しており、1982年の中間施設ケア事業の利用者数の66%は301人以上の入所施設入所者であった。16人以上の入所施設まで対象とすると、利用者の87%になった。

このため、中間施設ケア事業は入所施設を優遇し、地域の小規模住居の拡大に貢献していないという意見も見られた。

連邦政府からの州立入所施設への補助事業が開始されて以後、ゆとりのできた州の中には、独自に地域での生活を可能にする住居、仕事、相談等の援助を展開する州がでてきた。これらの活動に対して、1981年、中間施設ケア事業の内容を用途変更する形で家庭・地域援助事業が（Home and Community Based Service; HCBS）認められ、居住施設以外にもケース・マネージメント、昼間活動事業としてのディサービス、リハビリテーションサービス、レスパイトケア等に用いることが可能になった。

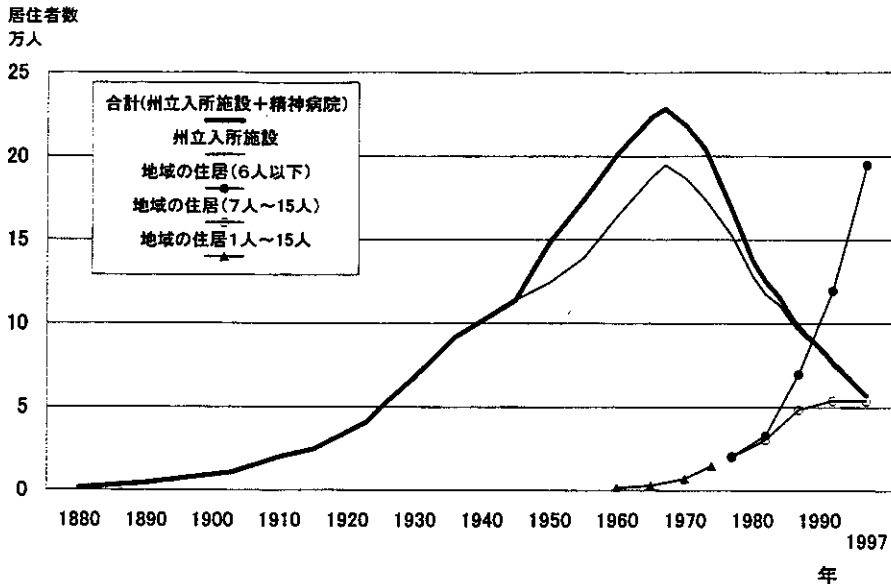
家庭・地域援助サービス事業は、個人個人に応じた柔軟なサービスが実施出来るために、施設サービスに徐々に取って代わりつつある。このサービスの内容、サービスを受ける人の選択は、州に任されている。アンダーソンら（Anderson 1997）による調査では、49州の内、半数は市町村が本人、家族、専門家のチームによって個人のサービスを決定している。また、この事業を受けることのできる利用者の1住居あたりの居住者数も2人から20人までの幅があり、28州（全米の家庭・地域援助サービス事業利用者の38.4%にあたる）ではこの事業を8人以下の住居の居住者に限っている。また、これまでの中間施設ケア事業の利用者を家庭・地域援助サービス事業に振り替える現象も起こっており、例えばニューヨーク州では305カ所の中間施設ケア事業で運営していたホームをさらに小さな4人～6人の住居100カ所、7人～15人の住居255カ所へと振り替えている。

地域の小規模住居の形態は、利用者が自分の家を所有しあるいは借家人となり、「自分の家で支援を選択できる生活（Support Living）」の形態（本論文（9）今後の方向 - 自分の家をもつで述べる）が現れ、連邦政府は1億ドルの助成金で、コミュニティサポートリビング（Community Support Living Arrangements CSLA）の5年計画によるモデル事業を8州で実施している。

(2) 施設入所者数と地域の小規模住居利用者数の推移

州立入所施設および精神病院に入院している精神遅滞者数の経年的な推移を図1に、日本の施設利用者数の推移を図2に示した。図1は、レーキンら (Lakin 1982, 1988)、ポリスターら (Polister 1998)、ブリニンクスら (Bruininks 1980) の資料から作成した。

図1 入所者数および地域の小規模住居利用者数の推移
(アメリカ合衆国)

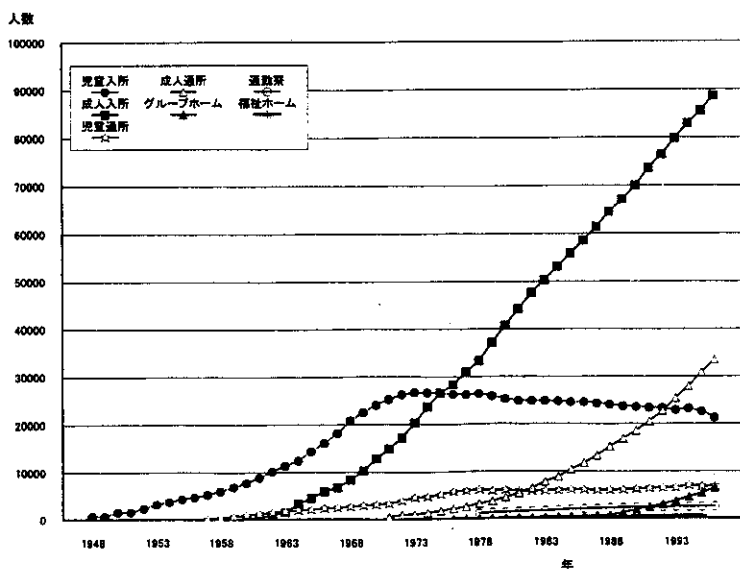


精神病院に入院していた知的障害者は、1950年には23,905人であった。その後、入院者数は増加し、最頂期の1960年には37,641人となり、以後減少して1977年には2万人以下、1980年には1万人以下となり、1988年からはさらに2000人以下となって1998年には1003人となっている。

図2では、日本の知的障害者の居住施設、通所施設利用者の推移を示した。

アメリカ合衆国と日本の入所施設利用者数の経過を比較すると、アメリカ合衆国は1900

図2 知的障害者の居住・通所施設利用者数の推移



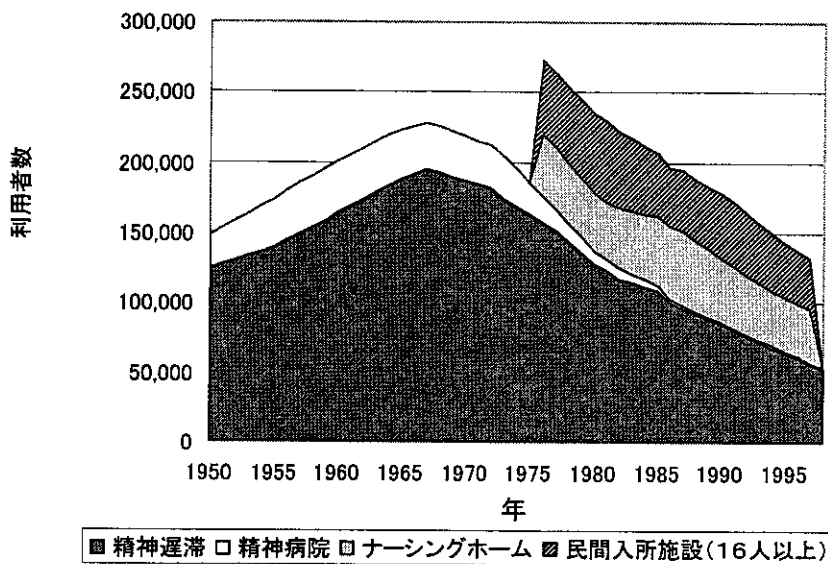
年代初期から入所施設の入所者数がゆっくりと増大していることがわかる。知的障害者の州立施設入所者数は、1967年の194,650人を最頂年として以後、下降する。1967年は日本では、入所施設は児童数4,436人、成人の入所施設入所者数は1,855人で非常に少なく、入所者数はその後増加する。

日本の精神病院にはおよそ8,000人の知的障害者が入院し、救護施設入所者の約半数が知的障害者と言われている。高齢化に伴い、特別養護老人ホームなどの高齢者施設での入

所者も今後増えると思われる。知的障害者施設だけではなく、それ以外の居住施設で生活する知的障害者数の統計も今後フォローする必要がある。

アメリカ合衆国では、知的障害者の州立入所施設、精神病院の他に、ナーシングホーム、民間入所施設に入所した。図3はその両者の入所者数を加えて示した。1975年以前の入所者数が不明なため、両施設の入所者数は突然増えているように見えるが、これらの入所者は州立入所施設の退所が求められる中で入所者がメディケイドによる補助が行われることになった民間入所施設、ナーシングホームへ急遽移行した人が多い。

図3 居住サービス利用者数の推移(施設)



ミッチェルら (Mitchell 1990) によると、ナーシングホーム全体の利用者数は、1963年から1971年に32万人から94万人へと3倍に膨れ上がり、中間施設ケア事業が実施された1970年

にはおよそ38,000人の精神遅滞者がナーシングホームに入所していた。1987年には、ナーシングホーム法が改正され、知的障害者の入所基準を厳しくし、医療の必要としない入所者に対し、より適切な居住施設への移行が勧告された。また、ナーシングホームでの知的障害者の入所環境も問題とされた (Bikren 1987 注参照)。それにもかかわらず、1980年代にはおよそ4万人～5万人の知的障害者がナーシングホームに入所しており、1996年でも37,600人とどまっている。1987年、1988年の調査によれば、75%～90%のナーシングホーム利用者は、医療の必要性や感覚障害のないもので、他に移行した方がよいと思われる入所者である。

民間が運営する入所施設数 (入所者総数) は、1977年1378施設 (52,718人)、1982年1370施設 (57,396人)、1987年1370施設 (42,081人)、1992年1320施設 (45,805人)、1996年1239施設 (37,015人) とほとんど変化していない。ヘイドンら (Hayden 1994) は、民間施設の入所者が低減しない理由として、民間施設は州立の施設と比較して経費が安い (民間年間19,690ドル、公立42,812ドル) 上に、入所者の障害も比較的軽度な人が多く、入所者の保護者も地域移行に積極的でない、ことをあげている。

(3) 州立入所施設とグループホームの規模

アメリカ合衆国における州立入所施設の1施設あたりの平均居住者数は、レーキンら(Lakin 1982)によると、1900年までは300人以下であったが、1920年には約600人となり、1940年代から1950年代前半にかけて1,200人から1,300人となり、1950年代後半から1960年にかけては1,500人をこえた。以後、1960年には約1200人、1970年には約1000人、1980年には500人以下に減少している。

1982年のハウバーら(Hauber 1989)の調査では、州立入所施設の定員規模は、定員数251人から500人の施設が73施設(27,402人)、501人から750人が47施設(29,015人)、751人から1,000人が22施設(17,975人)、1,001人から1,500人が22施設(26,097人)、1,501人から2,000人が4施設(6,914人)である。グループホーム等の地域の小規模住居を含めた州立の居住施設の内、251人以上の施設に93.5%の人が在所している。

1996年のアメリカ合衆国入所施設の一覧が、サンドリンら(Sandlin 1997)の報告にある。入所者が16人以上の218の州立入所施設の規模別分布をみると、施設数と入所者数は、30人以下の定員数をもつ施設が17施設(入所者387人)、31人から50人が11施設(477人)、51人から100人が31施設(2,340人)、101人から250人が64施設(10,382人)、251人から500人が64施設(23,260人)、501人から750人が24施設(15,038人)、751人から1,000人が6施設(4,873人)である。それ以上の施設は1施設で1,032人が入所している。大規模の施設は依然として多く存在しているが、漸次縮小している。

日本では、50人規模の施設が多い。しかし、300人以上500人未満の施設が8カ所、500人以上千人以下の施設が13カ所ある。入所者数施設の規模数の問題は、一施設の入所者数に加えて、共同生活者数(食事等の日常生活を共にする生活単位)やコロニーによく見られるように同一敷地内における居住者数も今後、統計値としてとりあげ、フォローする必要がある。それによって入所施設の多様性が明らかになり、類別化された入所施設と地域移行の問題を関連づけて検討することができる。

アメリカ合衆国のグループホームが自発的に発生した初期の段階では、規模も多く、定義も多様である。オコナーら(O'Connor 1974)のアメリカ合衆国最初のグループホーム調査では、10人以下が34.9%(213カ所)、11人~20人が36.5%(223カ所)、21人以上は28.1%(172カ所)であった。またすでに、20歳以下の児童が35%入居している。ブルウィニクスら(Bruininks 1980)の1977年の4,427カ所のグループホーム調査でも、表1のように規模は大きい。

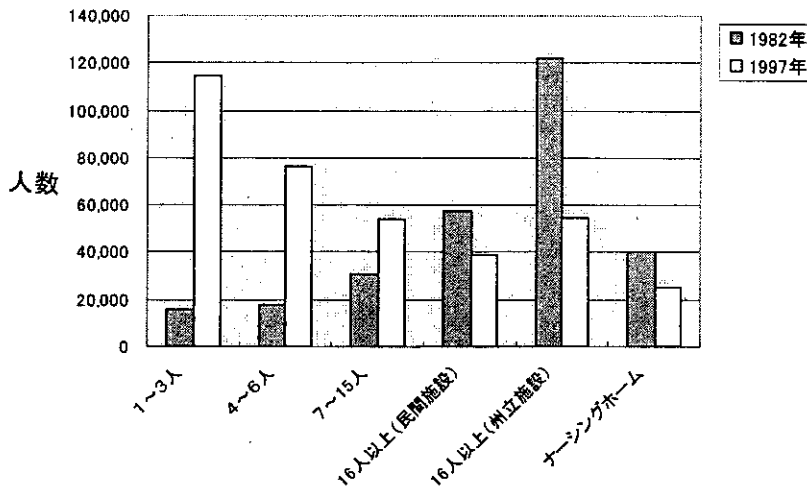
表1 グループホームの規模と定員数
(アメリカ合衆国 1977年)

定員規模	グループホーム数	入居者数	%
1~4人	1,235	3,304	5.3%
5~10人	1,992	14,331	6.1%
11~15人	459	5,910	9.5%
16~20人	213	3,810	6.1%
21~25人	73	1,674	2.7%
26~30人	64	1,796	2.9%
31人以上	391	31,572	50.6%
合計	4,427	62,397	100.0%

これらのアメリカ合衆国初期のグループホームの規模は、日本のグループホームの1カ所あたりの入居者数（国、地方自治体の制度によるものがそれぞれ4.2人、4.8人：グループホーム事業のあり方に関する調査研究委員会 1994、渡辺ら 1998）と大変異なっている。

その後のグループホームの規模と入居者数について、ポリスターら（Polister 1998）

図4 居住サービスの規模別利用者数(1982年、1997年)



の資料を、図4に示した。1982年には、ナーシングホームを含めて284,207人が居住サービスを利用し、6人までの規模のグループホームには、11.7%であった、1997年には、363,489人の居住サービス利用者の中、6人までのグループホームで生活している人が52.6%と半数になっている。

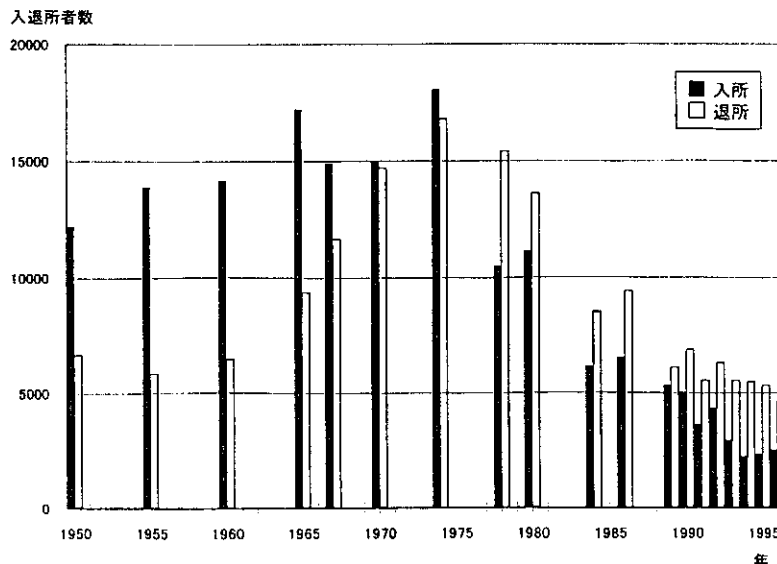
(4) 施設入所者の入退所率、再入所率、退所先

1) 入退所率と再入所率

入所施設から入所者が地域へ移行する指標としての退所者数は、入所者数と関連して共に把握することが重要である。

図5は、レーキンら(Lakin 1996)の資料により入所施設の入所者数（再入所を含む）、

図5 州立入所施設の入退所者数の推移
(アメリカ合衆国 1950年~1995年)

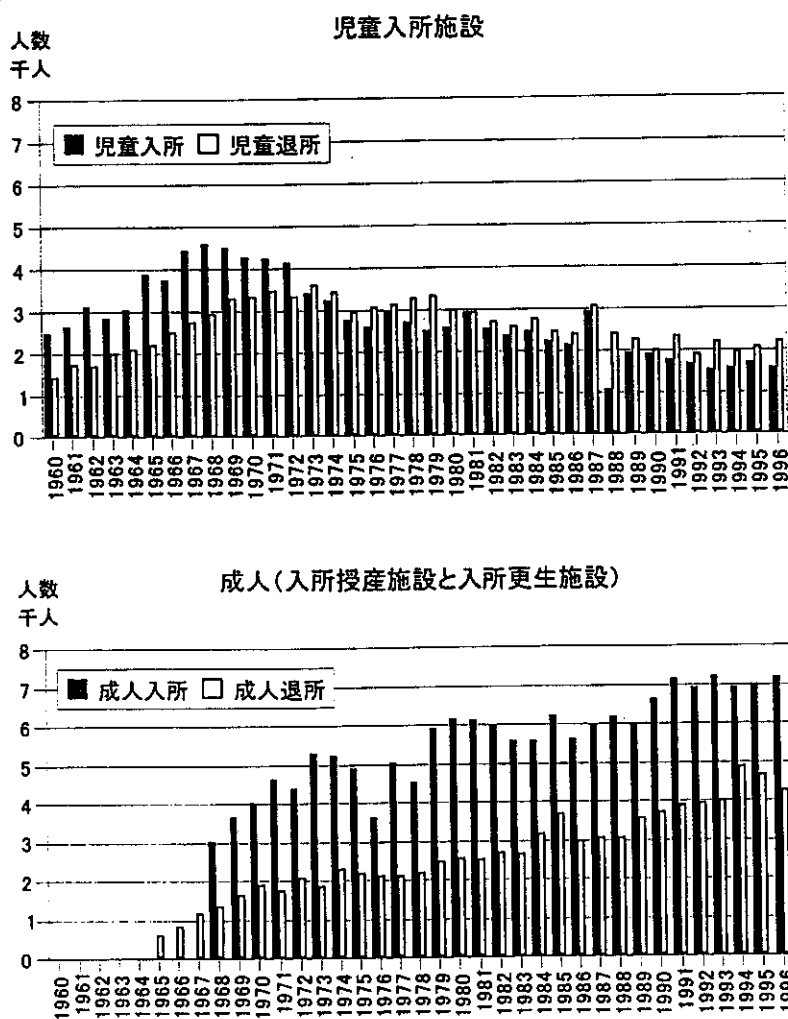


退所者数を年度別に示したものである。レーキンらの入、退所数のパターンは、3期に分けて説明できる。第一期は、今世紀のはじめから1960年代まで、入所者数、退所者数、どちらも増大するが、入所者数は退所者数よりも多く再入所者数は少ない。死亡率は1903年は4.1%、1962年は1.9%で減少している。

第二期は、1960年代中頃から1970年代にわたり、1965年より新規入所数が減少し始め、1970年代には退所者数が入所者数を超える。退所者数は、毎年14,000人から17,000人とともに多くなり、そのために再入所者数も増加した。レーキンら (Lakin 1982) の報告では、1978年、1980年には再入所者数は、新規入所者数よりも多くなっている。退所後、地域で対応が困難な知的障害者を入所施設が受け止めたのである。第三期は1980年から現在までで、レーキンら (Lakin 1997) によれば、新規入所数も一定で、新規入所者数の再入所者数がしめる割合も1991年35.7%、1994年30.7%、1996年31.8%とほぼ同じである。1996年には、新規入所者数2,537人、退所者数4,657人であり、いずれも少なくなっているため国全体の入退所の状況の傾向の意味が弱まりつつある。

日本の入退所の状況を児童と成人別に図6に示した。児童は児童入所施設、成人は入所更生施設と入所授産施設の合計を社会福祉行政業務報告から集計したものである。

図6 入所施設の年度別入退所数(日本)



児童入所施設の年間入所者数は1968年より1972年までは4,000人を超えているが、1988年以後は2,000人以下となった。退所者数は1973年に入所者数を超え、以後毎年入所者数よりも退所者数のほうが多い。図5のアメリカ合衆国と同じパターンを辿っている。

成人入所施設の場合には、入所者数は一貫して退所者数よりも多い。入所者数は、1969年から1983年までは退所者数の2倍以上である。その後退所者数に対する入所者数の比率は徐々に下降しているが、1994年以降でも1.42倍から1.71倍の範囲にある。全体としては図2に示したように増加している。アメリカ